

平成26年度

児童・生徒の学力向上を図るための調査

報告書

平成27年4月

青梅市教育委員会

はじめに

青梅市教育委員会 教育長 岡田 芳典

本報告書では、東京都教育委員会が実施している「児童・生徒の学力向上を図るための調査」における各問題の結果分析と授業改善とともに、平成26年度「全国学力・学習状況調査」の概要および結果を掲載しております。

学力調査には、一人一人の児童・生徒に着目して確かな学力を育むという目的があります。学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況を把握し、指導方法の改善に生かすために、小学校では国語、社会、算数、理科の4教科、中学校では国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科において東京都の学力調査が実施されています。「できなかった」「分からなかった」問題をそのままにせず、「できる」「分かる」まで繰り返し指導を行うことは、学校教育の責務であります。子供たち一人一人の誤答の傾向や到達度を把握し、個に応じた指導を充実させるようお願いいたします。

また、平成24年度から自校の教員による採点となり、今年度が3回目となりました。迅速に児童・生徒へ結果を返却するなどの観点から、調査の実施、採点、分析等、各学校の先生方のご協力には深く感謝しております。

本報告書では、青梅市全体の調査結果を公表するとともに、青梅の子供たちの特徴的な結果について、その調査内容の「結果分析」および授業改善の具体的な在り方を「授業改善のポイント」として示しております。巻末には、今年度も、青梅市学力向上アドバイザーである東京女子体育大学常任理事の田中洋一教授より指導・助言をいただいた学力向上推進委員会の取組を紹介しております。

各学校におかれましては、この「結果分析」および「授業改善のポイント」、そして田中教授の指導・助言を参考にいただき、授業改善推進プラン等に生かしていただきますようお願いいたします。

結びに、青梅市教育委員会の学力向上施策に、御尽力いただいた全ての皆様に、改めて深く御礼を申し上げます。

青梅市の学力向上に向けての取り組みについて

青梅市学力向上アドバイザー

東京女子体育大学常任理事・教授 田中 洋一

ご縁があって青梅市学力向上推進委員会のお手伝いをさせていただいた。平成 26 年度は 2 回の検証授業を含めて充実した活動が行えたと評価できよう。ここではその活動を振り返り、次年度への方向性を示したいと思う。

委員会の活動が充実した要因は、まず委員の先生方が学力観を共有したことにある。小中学校で身に付けさせる学力とは何かということについては様々な意見があるが、ここでは学校教育法第 30 条及び第 49 条に基づき、①「基礎的な知識及び技能」、②「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」、③「主体的に学習に取り組む態度」であることを確認した。①②③の力は互いに作用し合い、子供たちの学習意欲を引き出し、生涯に亘り学習し続ける人間を育成することにつながるのである。この考えに添って、授業の在り方を考察したことにより、授業改善の方向性が明らかになった。

平成 26 年度の授業改善のキーワードの一つは、「子供が勉強したいと思う授業づくり」であった。これは特に上記③の育成を重視したものである。子供の学習意欲を喚起することは容易ではない。そのためには、子供が成就感をもつ授業や、学ぶ筋道が明確である授業でなければならない。つまり教師が教え込む授業でなく、児童生徒が自由な発想で学習できる授業が創造されなければならないのである。

また、もう一つのキーワードは、「子供たちに十分考えさせる授業づくり」である。これの主たるねらいが②の育成にあることはもちろんであるが、「考える」という活動は子供の主体的な行為であり、子供の意見や感想を中心に動く授業は、③の育成にもつながるという視点でもある。

②や③の力や資質を育成する授業を行う上で、最も留意すべきことは、教師の教えすぎにならないということである。教師が教えるということは授業の大切な要素であり、特に①の育成のために必要なことである。また、②や③の育成のための活動をする際にも、適切な教師の指導は大切である。しかし、教師がすべてを教え、そのなかでも何が大切かまで指導してしまう授業は、子供が受動的になり向上心をもちにくい。また、情報に対して、評価したり選択したり価値付けたりする力は育たないので、バランスの悪い学力になってしまう。大事なことは、教師が教えることと、子供が考えることを授業のなかにどのように配置するかということである。子供が考える場面を適切に設定するためには、多様な答えが想定できる課題の設定、考えやすい発問、自由に意見を言える雰囲気作り、途中までも評価する方向評価、などに留意する必要がある。26 年度に実施した検証授業はどちらもこれらの点で光る要素のたくさんあるものであった。

今後もこの方針に基づいて、各教科で具体的な授業方法を検証し、青梅市の子供たちの学力向上に努めていただければよいのではないかと考える次第である。

平成26年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 報告書

目 次

◇はじめに

◇青梅市の学力向上に向けての取り組みについて

青梅市学力向上アドバイザー 東京女子体育大学 常任理事・教授 田中 洋一

◇目 次

◇調査の概要 ----- 1

1 調査目的	2 調査対象	3 調査内容
4 調査方法等	5 調査結果の公表	6 調査実施日

第1章 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)

I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の概要 ----- 5

1 調査実施の趣旨	2 調査問題作成の基本方針	3 調査項目
-----------	---------------	--------

II 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の結果について

1 調査結果の概要 -----	6
2 各教科の問題ごとの正答率一覧と正答数分布	
(1) 国語 (2) 社会 (3) 算数 (4) 理科-----	7
(5) 青梅市の合計正答数の人数分布(小学校第5学年) -----	11
3 各教科の問題ごとの結果分析と授業改善のポイント	
(1) 国語(小学校) -----	12
(2) 社会(小学校) -----	13
(3) 算数(小学校) -----	14
(4) 理科(小学校) -----	16

第2章 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)

I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の概要 ----- 19

1 調査実施の趣旨	2 調査問題作成の基本方針	3 調査項目
-----------	---------------	--------

II 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の結果について

1 調査結果の概要-----	20
2 各教科の問題ごとの正答率一覧と正答数分布	
(1) 国語 (2) 社会 (3) 数学 (4) 理科 (5) 外国語(英語) -----	21
(6) 青梅市の合計正答数の人数分布(小学校第5学年) -----	26

3 各教科の問題ごとの結果分析と授業改善のポイント	
(1) 国語(中学校)	27
(2) 社会(中学校)	28
(3) 数学(中学校)	29
(4) 理科(中学校)	30
(5) 外国語(英語)(中学校)	31

第3章 学習に関する意識調査

I 小学校における学習に関する意識調査について	35
1 調査の概要 2 調査結果の概要 3 指導の改善に向けて	
II 中学校における学習に関する意識調査について	47
1 調査の概要 2 調査結果の概要 3 指導の改善に向けて	

第4章 青梅市教育委員会の学力向上に関わる取組について

I 青梅市教育委員会の学力向上に関わる取組について	63
II 青梅市学力向上5ヵ年計画	64
III 学力向上推進委員会の取組	65
1 学力向上推進委員会 2 推進委員会取組経過	
3 学力向上推進委員の構成について 4 研究授業について	

参考資料

◇ 平成26年度全国学力・学習状況調査の概要について	81
教科別正答数分布(小学校)、教科別正答数分布(中学校)	
◇ 学力向上パートナーシップ事業報告	84
各学校の取組(第二中学校、第二小学校、友田小学校)	
◇ 家庭学習のすすめ	91
家庭学習のすすめ保護者用	
家庭学習のすすめ活用の手引	
家庭学習のすすめ(小学校1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用、中学生用)	

調査の概要

1 調査目的

- (1) 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況および、読み解く力に関する定着状況を把握し、全都における教育行政施策に生かす。
- (2) 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- (3) 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る。
- (4) 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

2 調査対象 ※（ ）内は東京都全体

調査対象学年	調査を実施した学校数	調査を受けた児童・生徒数
市内（都内公立）小学校5学年	17（1,298）校	1145（90,529）名
市内（都内公立）中学校2学年	11（629）校	1191（74,823）名

3 調査内容

- (1) 児童・生徒の学力向上を図るための調査
 - ・小学校第5学年…国語、社会、算数、理科
 - ・中学校第2学年…国語、社会、数学、理科、外国語（英語）
- (2) 学習に関する意識調査＜調査対象の全児童・生徒＞ ※本報告書に結果掲載
- (3) 学校に関する質問紙調査＜調査対象の全学校＞ ※青梅市のみを集計なし

4 調査方法等

- (1) 児童・生徒の学力向上を図るための調査は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語（英語）の学習指導要領に示されている目標や内容にもとづいた事項および読み解く力に関する事項について、ペーパーテスト形式により調査する。
- (2) 学習に関する意識調査は、児童・生徒の学習や生活に関する意識や生活状況などについて質問紙形式で調査する。
- (3) 学校に関する質問紙調査は、学校における指導方法に対する取組や児童・生徒の学習環境、生活習慣などについて質問紙形式で調査する。

5 調査結果の公表

- (1) 報告書による結果の公表
 - ・各教科の観点ごと、読み解く力ごとの正答率（青梅市および東京都全体）
 - ・各教科の問題ごとの正答率（青梅市および東京都全体）
 - ・各教科の正答数分布（青梅市および東京都全体の調査結果）
 - ・児童・生徒質問紙調査集計結果（青梅市、都抽出校）※学校質問紙集計結果は、東京都の報告書参照
- (2) 各教科の問題ごとの結果分析について
 - ・青梅市全体および抽出校の調査結果にもとづき、分析した。※抽出校とは無作為抽出により選定した都全体の調査実施校の約10%にあたる学校である。

6 調査実施日

平成26年7月3日（木）

第1章

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」
(小学校)

I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の概要

1 調査実施の趣旨

東京都教育委員会では、平成16年度から、国語、社会、算数、理科の教科の目標や内容の実現状況を把握し、それを指導方法の充実・改善に結びつけることを目的に、教科別・観点別の学力定着状況調査を3年間実施した。その後、平成18年度から平成20年度にかけては、「問題解決能力等」の調査を実施し、平成19年度から平成22年度にかけては、「基礎的・基本的な事項に関する調査」を実施した。

これまでの調査の結果から、東京都における児童の学力の定着状況については、おおむね良好であるが、「長い文章を読んで内容を把握することや情報を整理して判断すること」について、課題があることが明らかになった。この課題を踏まえ、平成22年度には、「文章や図表、グラフなどから必要な情報を正確に読み取り、解釈しながら問題を解決する」過程において、児童がどの段階でどのような学習のつまずきがあるのかを明らかにするために、「読み解く力に関する調査」を実施した。平成23年度からは、小学校学習指導要領が全面実施されたことを踏まえ、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況と「読み解く力」の定着状況を把握するために、国語、社会、算数、理科の各教科について調査を実施している。

2 調査問題作成の基本方針

- (1) 調査問題を、よりよい授業展開の在り方を提案する「授業提案型」および児童の学習のつまずきが、どこでどのように見られたのか分析できる「課題分析型」の2種類とする。
- (2) 学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの評価の観点から調査する。
- (3) 「読み解く力」の定着状況を、「必要な情報を正確に取り出す力」、「比較・関連付けて読み取る力」、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の3つの観点から調査する。

3 調査項目

小学校第5学年

教科	調査項目
国語	・話すこと・聞くこと（「聞くこと」については、音声を聞いて答える問題） ・漢字の読み（「学年別漢字配当表」第4学年までのもの） ・漢字の書き（「学年別漢字配当表」第3学年までのもの） ・言葉に関する知識 ・文学的な文章の読み ・説明的な文章の読み ・書くこと 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力
社会	・身近な地域や区市町村の様子 ・地域の販売に携わっている人々の働き ・地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための活動 ・地域の人々の安全を守る活動 ・都道府県の位置 ・東京都の様子 ・古くから残る暮らしに関わる道具とそれらを使っていた頃の暮らし 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力
算数	・整数、小数（小数×小数の計算を含む、分数の計算 ・数の相対的な大きさ） ・面積 ・角の大きさ ・四角形 ・立方体、直方体 ・□などを用いた式 ・伴って変わる二つの数量関係 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力
理科	・風やゴムの動き ・昆虫と植物 ・電気の働き ・空気と水の性質 ・金属、水、空気と温度 ・天気の様子 ・月と星 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力

※各教科とも小学校第4学年までに学習した内容を含む。

Ⅱ 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の結果について

1 調査結果の概要

教科	《教科の観点ごとの正答率》					《教科の読み解く力ごとの正答率》						
	内容	都全体	平均正答率グラフ(%)			差	評価の観点	都全体	平均正答率グラフ(%)			差
		青梅市	0	50	100			青梅市	0	50	100	
国語	国語への関心・意欲・態度	94.1				-0.5	必要な情報を正確に取り出す力	86.1				-3.1
		93.6						83.0				
	話す・聞く能力	77.0				-4.0	比較・関連付けて読み取る力	31.3				-1.1
		73.0						30.2				
	書く能力	66.1				-6.2	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	41.5				-6.5
		59.9						35.0				
	言語についての知識・理解・技能	78.5				-6.4	B 読み解く力に関する内容	53.0				-3.6
		72.1						49.4				
	読む能力	71.5				-5.1	教科の合計(A+B)	74.1				-4.9
		66.4						69.2				
A 教科の内容	77.4				-5.0							
	72.4											
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	85.9				-2.4	必要な情報を正確に取り出す力	64.0				-3.5
		83.5						60.5				
	社会的な思考・判断・表現	68.9				-5.4	比較・関連付けて読み取る力	45.0				-3.6
		63.5						41.4				
	観察・資料活用 の技能	75.4				-3.3	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	50.7				-2.9
		72.1						47.8				
	社会的事象についての知識・理解	75.1				-3.4	B 読み解く力に関する内容	53.2				-3.3
		71.7						49.9				
A 教科の内容	74.7				-3.8	教科の合計(A+B)	69.7				-3.7	
	70.9					66.0						
算数	算数への関心・意欲・態度	87.1				-0.7	必要な情報を正確に取り出す力	83.1				-2.3
		86.4						80.8				
	数学的な考え方	64.1				-6.5	比較・関連付けて読み取る力	38.6				-7.0
		57.6						31.6				
	数量や図形についての技能	71.6				-6.5	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	33.6				-11.2
		65.1						22.4				
	数量や図形についての知識・理解	58.7				-7.4	B 読み解く力に関する内容	49.9				-6.8
		51.3						43.1				
A 教科の内容	64.6				-6.5	教科の合計(A+B)	61.6				-6.6	
	58.1					55.0						
理科	自然事象への関心・意欲・態度	89.7				1.4	必要な情報を正確に取り出す力	72.3				-3.9
		91.1						68.4				
	科学的な思考・表現	58.4				-3.5	比較・関連付けて読み取る力	51.3				-3.7
		54.9						47.6				
	観察・実験の技能	70.3				-4.0	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	48.6				-5.7
		66.3						42.9				
	自然事象についての知識・理解	67.0				-7.6	B 読み解く力に関する内容	57.4				-4.4
		59.4						53.0				
A 教科の内容	67.7				-4.6	教科の合計(A+B)	65.4				-4.5	
	63.1					60.9						

2 各教科の問題ごとの正答率一覧

(1) 国語（小学校第5学年対象）

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点					正答率 (都全体 (青梅市))	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④	⑤				
				0			50					
1(1)	1	3・4年 A話聞 I	聞き取るべき内容を自分で判断し、話の中心となる情報について聞き取ることができる。		○				88.1 % 84.8 %		-3.3	●
1(2)	2		聞き取るべき内容に関連する情報を聞き取ることができる。		○				93.4 % 91.6 %		-1.8	●
1(3)	3		聞き取るべき中心となる事柄を聞き取ることができる。		○				60.1 % 55.3 %		-4.8	●
1(4)	4		聞き取った情報を基に見学の順序を考慮することができる。		○				66.6 % 60.4 %		-6.2	●
2(1)	5	3・4年 伝(1)ウ(イ)	第4学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。					○	97.0 % 96.1 %		-0.9	○
2(2)	6		第3学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書くことができる。					○	76.0 % 59.7 %		-16.3	○
3(1)	7		第3学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書くことができる。					○	79.3 % 75.0 %		-4.3	○
3(2)	8		第3学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書くことができる。					○	45.8 % 36.4 %		-9.4	○
4(1)	9	3・4年 C読イ	筆者が数え方の例として取り上げた犬の数え方を正確に取り出すことができる。	取り出す力					86.1 % 83.0 %		-3.1	●
4(2)	10		資料Aと資料Bの内容を比較・関連付けて読み取ることができる。	読み取る力					31.3 % 30.2 %		-1.1	
4(3)	11	3・4年 C読エ	筆者の思いを理解・解釈して、まとめの文を書くことができる。	解決する力					41.5 % 35.0 %		-6.5	
5(1)	12	3・4年 C読ウ	叙述を基に場面の様子を正確に読み取ることができる。					○	87.8 % 86.1 %		-1.7	●
5(2)	13		表現の工夫を読み取ることができる。					○	48.3 % 36.0 %		-12.3	●
5(3)	14		「ぼく」の気持ちを読み取ることができる。					○	78.3 % 77.2 %		-1.1	●
5(4)	15	3・4年 C読	文学的な文章を登場人物に着目して読み取ろうとしている。	○					94.5 % 93.7 %		-0.8	●
6(1)	16	3・4年 B書イ	物語の基本的な特徴を理解し、書くことができる。			○			70.9 % 64.6 %		-6.3	●
6(2)	17	3・4年 伝(1)ア(イ)	文の意味に合った慣用句を正しく用いることができる。					○	72.8 % 66.3 %		-6.5	○
6(3)	18	3・4年 B書エ	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることができる。			○			61.3 % 55.2 %		-6.1	●
6(4)	19	3・4年 B書	物語の基本的な特徴を踏まえて書こうとしている。	○					93.6 % 93.5 %		-0.1	●
7(1)	20	3・4年 伝(1)イ(ク)	適切な接続語を使うことができる。					○	89.9 % 85.6 %		-4.3	●
7(2)	21		適切な接続語を使うことができる。					○	87.8 % 84.3 %		-3.5	●
7(3)	22		指示後が指し示すものを的確に捉えることができる。					○	78.9 % 73.5 %		-5.4	

評価の観点 ①国語への関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力
⑤言語についての知識・理解・技能

(分類) ○ 小4までの東京ベーシック・ドリルの問題
● 正答することが期待される問題

到達目標値は、○と●の合計数

(2) 社会 (小学校第5学年対象)

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④				
				0			50				
1(1)	1	3・4年 (1)ア	地図を基に身近な地域の様子を、方位から読み取ることができる。			○	67.2 % 63.6 %		-3.6	○	
1(2)	2		地図から身近な地域の土地利用の様子とその理由を捉えることができる。		○		79.3 % 73.0 %		-6.3	○	
2(1)新潟	3	3・4年 (6)ア	都道府県の名称と位置を理解できる。			○	86.2 % 85.4 %		-0.8	○	
2(1)千葉	4				○		87.6 % 86.3 %		-1.3	○	
2(1)高知	5				○		64.4 % 60.3 %		-4.1	○	
2(1)鹿児島	6				○		75.7 % 71.7 %		-4.0	○	
2(2)	7			3・4年 (2)アイ	スーパーマーケットの店内図から、店内がどのような様子になっているかを読み取ることができる。			○	88.6 % 85.5 %		-3.1
2(3)A	8	スーパーマーケットを見学して見つけた工夫には、どのような目的があるかを読み取ることができる。				○	69.7 % 65.0 %		-4.7	●	
2(3)B	9					○	72.1 % 64.7 %		-7.4	●	
2(4)	10	学習を振り返り、地域の人々の販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。				○	93.7 % 94.2 %		0.5	●	
3(1)	11	3・4年 (5)ア	洗濯板の使い方についてのインタビューから、人々の知恵を読み取ることができる。			○	69.5 % 68.8 %		-0.7	●	
3(2)	12		道具のうつりかわりと、それに伴った人々のくらしの変化を理解している。			○	83.3 % 79.9 %		-3.4	●	
4(1)	13	3・4年 (4)アイ	都内の火災発生件数の変化から、課題を見付け、調べようとしている。	○			78.1 % 72.7 %		-5.4	●	
4(2)	14		119番通報は、関係機関が相互に連携して緊急に対処する体制となっていることを捉えることができる。	○			64.0 % 59.0 %		-5.0	●	
4(3)	15		資料から読み取った情報をもとに、地域の安全を守るためにできることを捉えることができる。		○		59.3 % 55.5 %		-3.8	●	
5(1)①	16	3・4年 (6)イウ	東京都の地形図から、主な都市、交通施設、特色ある地域を読み取ることができる。		○		76.0 % 72.2 %		-3.8	○	
5(1)②	17				○		71.7 % 69.5 %		-2.2	○	
5(1)③	18				○		67.0 % 61.3 %		-5.7	○	
5(1)④	19					○	64.4 % 58.4 %		-6.0	○	
5(2)	20			東京都の地形図から、東京都の土地の高さについて表すことができる。		○		76.2 % 70.3 %		-5.9	○
6(1)	21	3・4年 (3)アイ	B地域の地形の様子についての情報を正確に取り出すことができる。	取り出す力			77.4 % 75.7 %		-1.7	●	
6(2)	22		貯留管の役割と設置後の浸水被害の状況を比較・関連付け、貯留管が設置された時期を読み取ることができる。	読み取る力			31.6 % 29.2 %		-2.4		
6(3)	23		下水道にはどのような役割や目的があるのかを考え、結論付けることができる。	解決する力			34.3 % 32.5 %		-1.8		
7(1)	24	3・4年 (6)ウ	C市の観光の様子についての情報を、資料から正確に取り出すことができる。	取り出す力			50.6 % 45.3 %		-5.3	●	
7(2)	25		取り出した情報を比較・関連付け、C市で多くの観光客が訪れる場所の特徴を読み取ることができる。	読み取る力			58.5 % 53.5 %		-5.0		
7(3)	26		C市では、歴史ある建造物や街並みなどの地域の伝統や文化を受け継ぎ、保護・活用しながら、観光などの産業の発展に努めていることを結論付けることができる。	解決する力			67.1 % 63.1 %		-4.0		

評価の観点 ①社会的な事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・表現 ③観察・資料活用の技能
④社会的な事象についての知識・理解

(分類) ○ 小4までの東京ベーシック・ドリルの問題
● 正答することが期待される問題

到達目標値は、○と●の合計数

(3) 算数 (小学校第5学年対象)

問題番号	通し番号	要 学 領 の 内 容 指 導	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)	差	分類	
				①	②	③	④					
												0
1(1)	1	5年 A(3)イ	小数×小数の計算ができる。				○	64.3 % 55.3 %		-9.0		
1(2)	2	4年 A(6)イ	帯分数－真分数(同分母)の計算ができる。				○	82.0 % 74.9 %		-7.1	◇	
1(3)	3	4年 D(2)ア	四則の混合した計算ができる。				○	70.7 % 68.4 %		-2.3	◇	
1(4)	4	4年 A(5)ウ	小数÷整数の計算ができる。				○	72.3 % 64.6 %		-7.7	◇	
2(1)	5	4年 A(1)ア	数の相対的な見方(単位ごとの数の和)について理解している。				○	76.6 % 68.0 %		-8.6	◇	
2(2)	6	5年 A(2)ア	数の相対的な見方(1/100の大きさ)について理解している。				○	48.1 % 36.4 %		-11.7	◇	
2(3)	7	3年 A(1)ウ	数の相対的な見方(10を単位)を理解している。				○	67.5 % 59.8 %		-7.7	◇	
2(4)	8	4年 A(5)ア	数の相対的な見方(0.01を単位)を理解している。				○	65.8 % 62.6 %		-3.2	◇	
3アイ	9	4年 A(5)ウ	小数÷整数の計算の仕方を理解している。				○	62.4 % 52.8 %		-9.6	◆	
3ウエ	10						○	38.9 % 28.5 %		-10.4	◆	
4(1)さとし	11	4年 B(1)イ	複合図形の面積の求め方を捉え、図から式に表すことができる。		○			70.9 % 62.8 %		-8.1	◆	
4(1)ひろみ	12				○			68.7 % 62.9 %		-5.8	◆	
4(2)	13		複合図形の面積の求め方を捉え、式から図に表すことができる。		○			83.5 % 78.8 %		-4.7	◆	
4(3)	14		複合図形の面積を求めることができる。			○		68.6 % 62.4 %		-6.2	◆	
4(4)	15	4年 B(1)	面積の学習をもとに、学習の意欲を高めている。	○				86.8 % 85.2 %		-1.6	◆	
5(1)	16	4年 C(1)イ	いろいろな四角形の特徴について理解している。				○	65.2 % 61.7 %		-3.5	◆	
5(2)	17						○	41.0 % 36.0 %		-5.0	◆	
5(3)	18						○	21.5 % 14.9 %		-6.6	◆	
6(1)①	19	4年 C(2)ア	直方体の構成要素及び辺や面の関係について理解している。				○	81.4 % 74.1 %		-7.3	◇	
6(1)②	20	4年 C(2)イ					○	64.1 % 57.6 %		-6.5	◇	
6(1)③	21						○	62.0 % 53.8 %		-8.2	◇	
6(1)④	22						○	68.8 % 61.3 %		-7.5	◇	
6(2)	23	4年 C(2)ア	立方体の展開図に必要な面を考えることができる。		○			71.4 % 64.6 %		-6.8		
7(1)①	24	4年 D(3)ア	計算のきまりを使い、工夫して計算をすることができる。		○			59.8 % 49.3 %		-10.5	◆	
7(1)②	25					○			67.9 % 63.8 %		-4.1	◆
7(1)③	26					○			26.8 % 21.3 %		-5.5	◆
7(2)	27	4年 D(3)	計算のきまりを活用している。	○				87.3 % 87.6 %		0.3	◆	
8(1)	28	4年 D(2)ウ	条件を表した図をもとに、数を正しく取り出すことにできる。					84.1 % 81.7 %		-2.4	◇	
8(2)	29		条件を表した図をもとに、2つの数の関係を正しく読み取ることができる。					21.9 % 15.7 %		-6.2	◆	
8(3)	30		整えた条件を正しく用いて、問題を解決することができる。					38.6 % 28.6 %		-10.0		
9(1)	31	5年 D(2)	正三角形のタイルを並べて模様をつくるときの、必要なタイルの数を正しく取り出すことができる。					82.1 % 79.9 %		-2.2	◇	
9(2)	32		タイルを並べて模様をつくるときに、だんの数と必要なタイルの枚数を関連付けて表に表すことができる。					46.5 % 38.0 %		-8.5	◆	
9(3)	33		表から規則性を読み取り、記号を使った式に表すことができる。					47.5 % 41.2 %		-6.3		
9(4)	34		読み取った規則性をもとに、条件に合う模様のだんの数を求めることができる。					28.5 % 16.2 %		-12.3		

評価の観点 ①算数への関心・意欲・態度 ②数学的な考え方 ③数量や図形についての技能 ④数量や図形についての知識・理解

(分類) ◇ 教科書の例題レベルの問題 (習得目標値は、◇の数)
◆ 教科書の練習問題レベルの問題 (到達目標値は、◇と◆の合計数)

(4) 理科 (小学校第5学年対象)

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)			差	分類
				①	②	③	④		0	50	100		
1(1)	1	3年 A(2)	ゴムが元に戻ろうとする力の強さと車が動く距離を関係付けて理解している。				○	90.3 % 89.0 %		-1.3	○		
1(2)	2		実験結果をもとに、指定された距離に車を止めるためのゴムの伸ばす長さを考えることができる。		○			75.8 % 70.7 %		-5.1	○		
2(1)	3	4年 B(3)	折れ線グラフから、1時間の気温の変化がない時間帯を読み取ることができる。				○	93.2 % 92.0 %		-1.2	○		
2(2)	4		折れ線グラフから、1時間の気温の変化が最も大きい時間帯を読み取ることができる。				○	88.0 % 85.0 %		-3.0	○		
2(3)	5		晴れの日と曇りの日の気温の変化を理解している。				○	85.5 % 79.9 %		-5.6	●		
2(4)	6		晴れの日や曇りの日の温度変化の特徴と関連付けて、天気を予想することができる。		○			77.8 % 73.4 %		-4.4			
3(1)	7	4年 A(3)	乾電池の向きが反対であるときの簡易検流計の様子を読み取ることができる。				○	59.0 % 50.4 %		-8.6	○		
3(2)	8		2個の乾電池のつなぎ方の違いによるプロペラカーの進み方の違いについて理解している。				○	44.9 % 38.4 %		-6.5	○		
3(3)	9		乾電池のつなぎ方と電流の強さの関係について理解している。				○	64.5 % 55.4 %		-9.1	●		
4(1)	10	4年 A(1)	閉じ込められた水は押し縮められないことを理解している。				○	68.7 % 58.0 %		-10.7	○		
4(2)	11		閉じ込めた空気を圧したとき、元の空気の体積が大きい方が押し返す力(手ごたえ)が大きく感じることを理解している。				○	70.2 % 66.4 %		-3.8	○		
4(3)	12		閉じ込めた空気と水を圧したときの様子について考えることができる。		○			26.4 % 22.9 %		-3.5			
4(4)	13		空気と水の体積の変化の様子について学習したことをもとに、さらに関心をもって調べようとしている。	○				86.7 % 89.0 %		2.3	●		
5(1)	14	3年 B(1)	昆虫の生体の体は、頭、むね、はらでできていることを理解している。				○	45.2 % 28.8 %		-16.4	○		
5(2)	15		3対6本あしがある部位が胸であることを判断することができる。		○			42.6 % 38.3 %		-4.3			
5(3)	16		昆虫と植物の学習したことから、愛情をもって生物に接しようとしている。	○				92.8 % 93.3 %		0.5	●		
6	17	3年 A(3)	日かげのかべに日光を重ねたときの様子と、温かさや明るさの結果を関係付けることができる。		○			75.9 % 73.6 %		-2.3	●		
7(1)	18	4年 B(4)	方位磁石を適切に扱うことができる。				○	55.5 % 53.6 %		-1.9	○		
7(2)	19		月の高さを適切に調べることができる。				○	51.1 % 44.3 %		-6.8	○		
7(3)	20		月の方位と月の高さの情報を記録用紙に適切に記録することができる。				○	75.0 % 72.5 %		-2.5	●		
7(4)	21		月の観察結果から、記録していない時間の月の方位と高さを考えることができる。		○			51.6 % 50.3 %		-1.3	●		
8(1)	22	4年 B(3)	[表]の[ピーカー全体の重さ]から、重さの最も大きいものを正確に取り出すことができる。	取り出す力				79.9 % 78.8 %		-1.1	○		
8(2)	23		[表]の[ピーカー全体の重さ]と[ピー化の外側の様子]を比較・関連付けることができる。	読み取る力				47.3 % 46.4 %		-0.9			
8(3)	24		日常生活の中から結露と蒸発によって起こる現象を捉え、解釈・解決することができる。	解決する力				44.8 % 41.7 %		-3.1			
9(1)	25	4年 A(2)	[沸騰]について理解しており、グラフから沸騰した時間を読み取ることができる。	取り出す力				64.7 % 58.1 %		-6.6	○		
9(2)	26		[グラフ1]と[グラフ2]とを比較・関連付けて、熱の伝え方について読み取ることができる。	読み取る力				55.4 % 48.8 %		-6.6			
9(3)	27		(2)で分かったことと[おでんをおいしく作るコツ]を関連付け、意図を解釈し解決することができる。	解決する力				52.4 % 44.2 %		-8.2			

評価の観点 ①自然事象への関心・意欲・態度 ②科学的な思考・表現 ③観察・実験の技能
④自然事象についての知識・理解

(分類) ○ 小4までの東京ベーシック・ドリルの問題
● 正答することが期待される問題

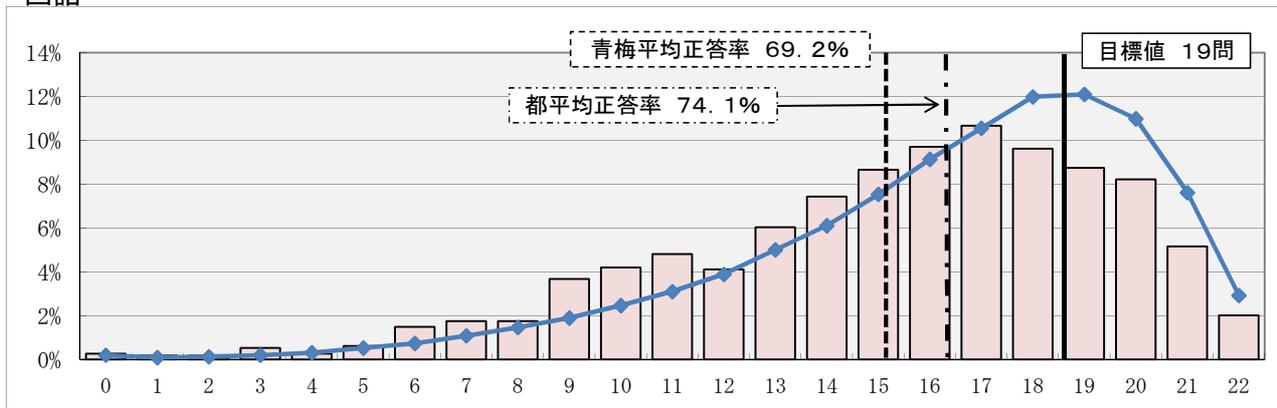
到達目標値は、○と●の合計数

青梅市の合計正答数の人数分布 (小学校 第5学年)

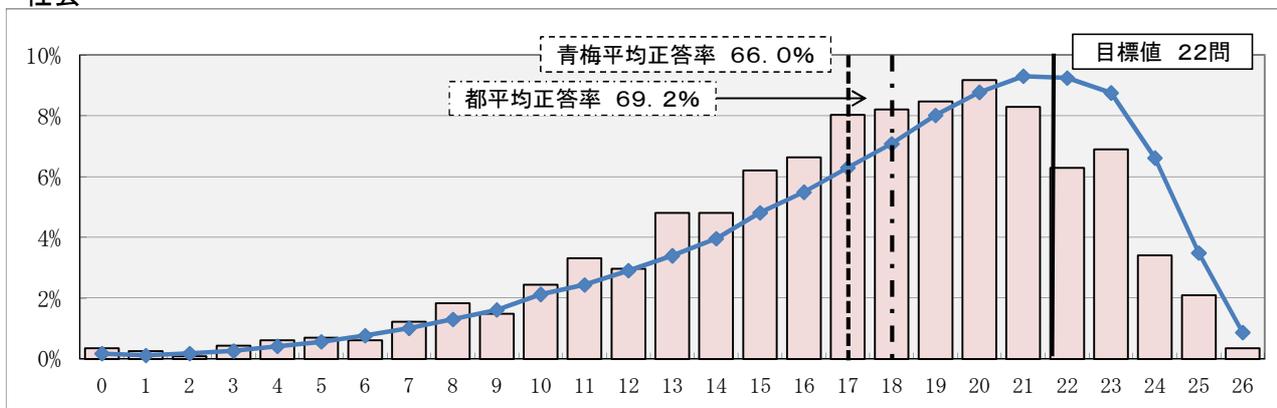
平成27年1月
青梅市教育委員会

* 棒グラフが青梅市、折れ線グラフが東京都を示す。(縦軸：児童の割合(%)、横軸：正答数(問))
※目標値とは、学習指導要領の内容について標準的に学習活動が行われたと想定した場合の、正答問数である。

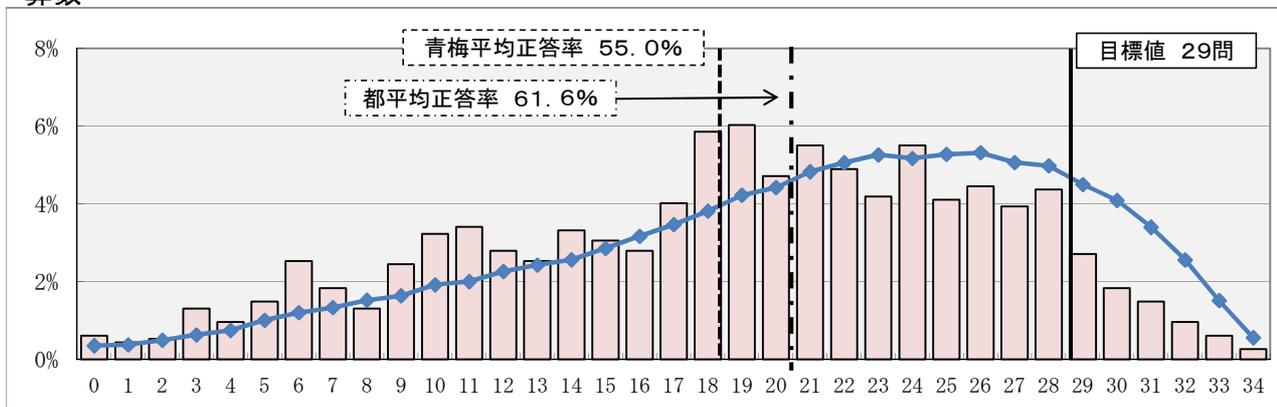
国語



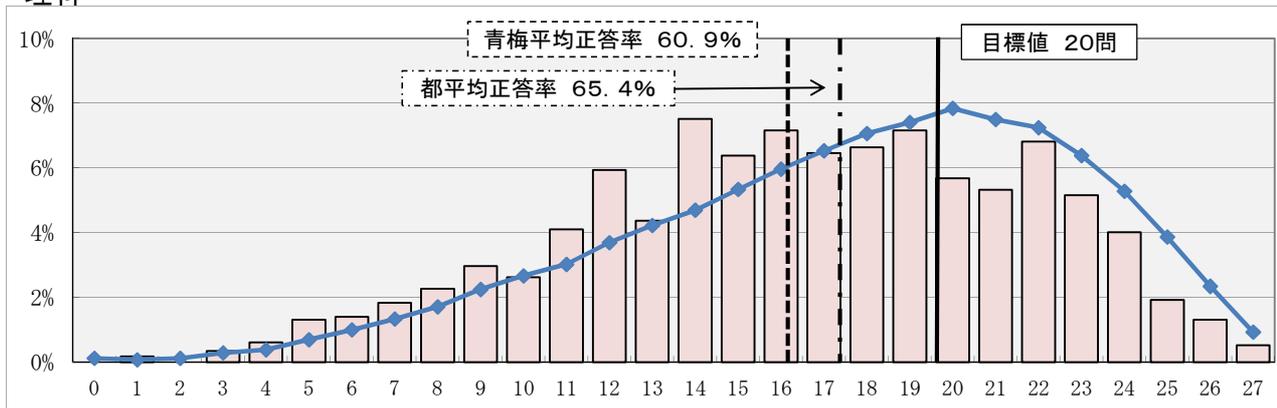
社会



算数



理科



3 各教科の問題ごとの結果分析と授業改善のポイント

(1) 国語 (小学校)

② 第4学年に配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)と(2)の___をつけた漢字の読みをひらがなで書きましょう。

(1) 運動会の入場行進で旗を持って先頭を歩いた。

(2) 駅ができ、商店街に人が集まるようになって、町が栄えた。

※(2)について、東京都の正答率は76%、青梅市は59.7%であった。



②(2)は「栄」という漢字を文脈に即して正しく読むことができるかをみる問題である。「栄」は第4学年の配当漢字である。誤答の要因としては、文脈に即して「えい」の読み方が適切でないことを判断することはできているが、「さか」という読みが十分身に付いておらず、文脈のみから読み方を想像し、当てはまる言葉を書いたことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 教室掲示などを利用し、漢字の読みの定着を図る。

○日常生活の中で接する機会の少ない漢字の読みについては、意図的に教室掲示をするなどして、活用していくことで定着を図る必要がある。

○国語科の授業では→音読み、訓読み、書き順、画数、意味、部首等の基礎的な指導を行う。

⑤(2) 「ぼく」の気持ちを読み取ることができる。 【読む能力】

【問題の概要】 (表現の工夫を読み取ることができる。)

「からみあってひっかかっているえだをつかもうとして」とありますが、このときの「たいち」の気持ちとして最もふさわしいものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア たれさがっている木のえだで、動物たちがけがをすることもあるということを、じいちゃんに教えたい気持ち。

イ 早く野いちごをつみに行きたいのに、えだがじゃまをしているので、じいちゃんに切ってもらいたい気持ち。

ウ タカの巣を守るために、えだを切るところを見せて、じいちゃんにほめてもらいたい気持ち。

エ 動物たちがけがをすることもかもしれないあぶないえだを、先に見つけたことを、じいちゃんに自まんしたい気持ち。

※東京都の正答率は48.3%、青梅市は36.0%であった。

【結果分析】 (東京都の結果 ※数値は抽出校の数値である。)

ア	イ	ウ	エ(正答)	その他	無回答
33.7%	6.4%	10.4%	48.3%	0.2%	0.9%

⑤(2)は「ぼく」の気持ちを読み取ることができるかをみる問題である。正答は「エ」で36% (青梅) の正答率である。東京都とは、12.3%下回っている。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ア」で33.7% (東京都) である。この誤答の要因としては、直前の一文にある「こういうえだは、切っておかないと動物たちがけがをするんだよね！」の部分のみに着目してしまったことによるものと考えられる。

(2) 社会 (小学校)

1(2) 地図から身近な地域の土地利用の様子とその理由を捉えることができる。

【社会的な思考・判断・表現】

【問題の概要】

この土地の使われ方について、けんじくんが発表した内容の①に当てはまるものとして最もふさわしいものを、下のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。

ア この地域には駅や店はなく、手つかずの自然に囲まれた地形になっているからだと思います。

イ この地域には会社や工場がなく、米づくりや野菜づくりがさかんに行われているからだと思います。

ウ この地域には川が流れていて、米づくりや野菜づくりに使う水を取り入れやすい地形になっているからだと思います。

エ この地域には市役所や病院などの公共施設が駅の近くにあり、人びとが便利にらせるようになっているからだと思います。

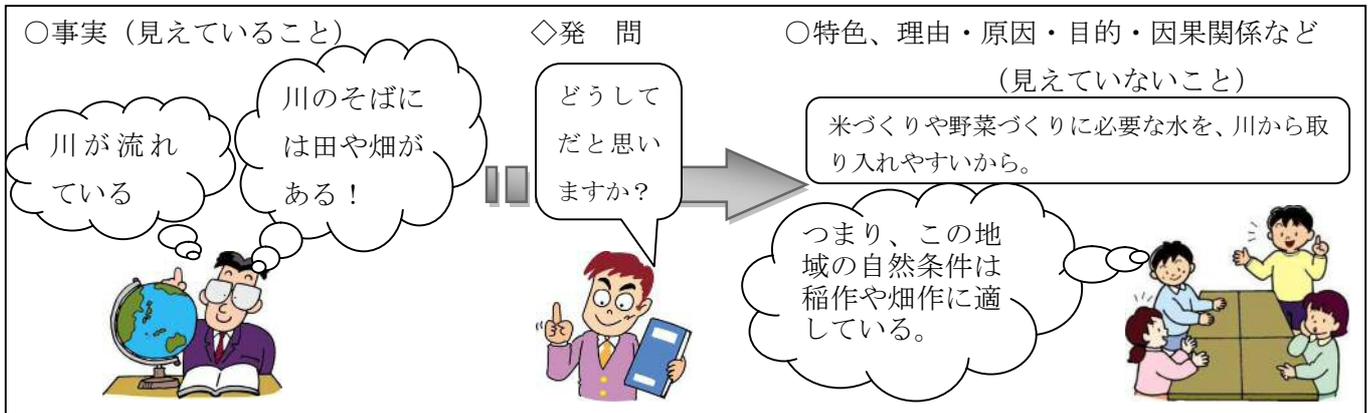
※東京都の正答率は79.3%、青梅市は73.0%であった。

わたしたちの地域には、田んぼや畑として使われている土地がたくさんあります。
その理由は、①



【授業改善のポイント】

地図上に見えている事実(土地利用の様子)から、見えていないもの(特色、理由・原因・目的・因果関係など)を考える活動を設定する。



○児童に地図を活用することのよさを実感させるためには、地図上に見えている事実(土地利用の様子)から、見えていないもの(特色、理由・原因・目的・因果関係など)を考える発問を、教師が意図的に行うことが大切である。

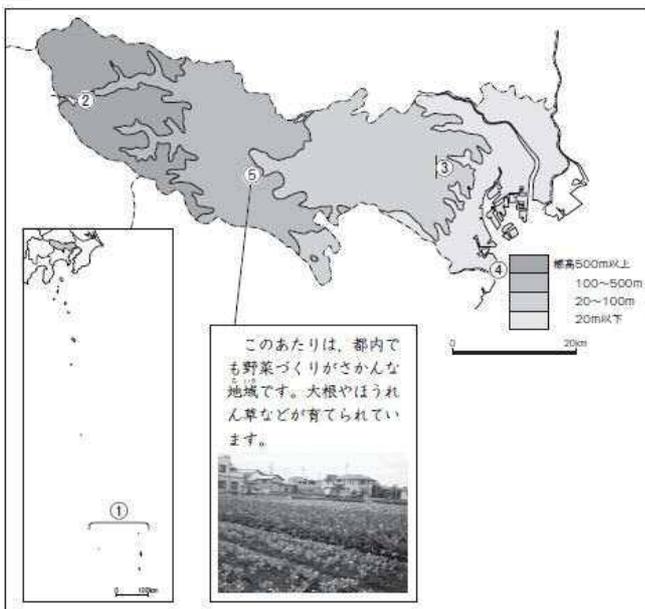
5(1) 東京都の地形図から、主な都市、交通施設、特色ある地域を読み取ることができる。

【社会的な事象についての知識・理解】

東京の地形図から、主な都市、交通施設、特色ある地域を読み取ることができるかをみる問題。

【結果分析】※()内は東京都の正答率

①は小笠原諸島、②は奥多摩、③は新宿、④は東京国際空港で、青梅市の正答率は①72.2%(76%)②69.5%(71.7%)③61.3%(67.0)④58.4%(64.4)である。3割を超える児童は、奥多摩や都庁のある新宿、東京の空の玄関口である東京国際空港の位置を理解していないという結果がでている。東京都の特色について、地形、気候、産業、交通網等、特色ある地域などの事項の充実を図る必要がある。



(3) 算数 (小学校)

②(2) 数の相対的な見方 (1/100の大きさ) について理解している。

【数量や図形についての知識・理解】

【問題の概要】

125万を1/100にした数は、です。

※東京都の正答率は48.1%、青梅市は36.4%であった。

【結果分析】(東京都の結果)

12500	125000	250000	12500000	その他	無解答
45.9%	7.9%	0.9%	0.7%	40.5%	4.1%

②(2)は、数の相対的な見方 (1/100) について理解しているかを見る問題である。正答は、「12500」で、36.4% (青梅市) の正答率であり、東京都より11.7%下回っている。誤答の中で反応率が高いのは、「125000」で7.9%である。この誤答の要因としては、0を取るという処理については理解しているが、1/10の大きさと捉えてしまったことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】数についての感覚を豊かにする指導の充実を図る。

○「数と計算」の領域では、整数、小数、分数の意味と表し方を理解すること、数についての感覚を豊かにすること、言葉や数による表現力を育てることを重視することが求められている。

十進位取りの記数法の指導に当たっては、まず125万を1250000の形で表してから考えさせ、様々な数について複数の見方、表現ができるようにすることが大切である。なお、下のような表を用いて、位ごとに数を記入させ、空位の0を捉えさせるとともに、一、十、百、千の位が繰り返し用いられ、4桁ごとに「万」「億」「兆」と新しい単位となることを理解させることも必要である。

千 百 十 一	千 百 十 一	千 百 十 一	千 百 十 一	1/10	1/100
兆	億	万			

③ 小数÷整数の計算の仕方を理解している。

【数量や図形についての知識・理解】

【問題の概要】

だいすけくんとさきこさんの学級では、次の問題に取り組んでいます。

問題

13.5mのひもを45人で等分すると、一人分のひもの長さは何mになるでしょう。

この問題の答えを求めるために、だいすけくんとさきこさんは、 $13.5 \div 45$ という式を立てました。そして、これまで学習した整数どうしのわり算を使って計算の仕方を考え、それぞれ次のように発表しました。

だいすけくんとさきこさんの考えのアからエに当てはまる数を、それぞれ書きましょう。

【だいすけくんの考え】

13.5mを ア 倍して、135mと考えると、計算をしました。

$$135 \div 45 = 3$$

13.5 ÷ 45の答えは、この計算の答えの イ になるので、一人分のひもの長さは、0.3mです。

答え 0.3m

【さきこさんの考え】

13.5mを ウ mが135個と考えると、計算をしました。

$$135 \div 45 = 3$$

これは、 エ mが3個分ということなので、一人分のひもの長さは、0.3mです。

答え 0.3m

※設問アイにおける東京都の正答率は64.5%、青梅市は52.8%。設問ウエは39.0%、青梅市28.5%であった。

3は、小数÷整数の計算の仕方を理解しているかをみる問題である。

- だいすけくんの考え
計算の仕方について、被除数を10倍して計算し、商を10分の1にする。
- さきこさんの考え
小数を0.1のいくつ分と見て整数に帰着して計算する。

だいすけくんの問題では、
64.5%の正答率であるのに
対し……

さきこさんの問題については、
39%の正答率である。



正答率から見ると

整数化するために
0.1のいくつ分と見る
単位の考えにつ
いて、十分に身に付
いていないことが
分かる。

【授業改善のポイント】 多様な考えを認め、身に付けさせる指導を行う。

○ 式操作による計算処理と数の相対的な見方

この問題は、授業場面をもとにした問題設定となっており、実際の授業においては、この両方の考え方をを用いることになると考えられる。

式操作による計算処理では、

「13.5mを10倍して、～」

「答えは、この計算の答えの10分の1になるので～」

という表現を全員にさせ、計算の仕方についての理解を深めさせていくことが大切である。

また、単位の考え方は、この後の分数の計算でも用いる大切な考え方であるため、「0.1のいくつ分」（数の相対的な見方）の考えに絞って適用問題に取り組ませ、児童に単位の考えを意識付けていくことが必要である。

(4) 理科 (小学校)

4(1) 閉じ込めた水は押し縮められないことを理解している。

【自然現象についての知識・理解】

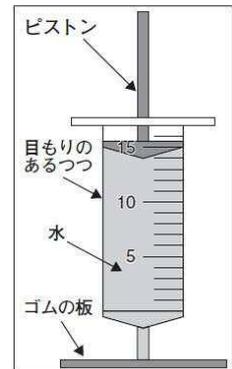
【問題の概要】

[図1]のように、目もりのあるつつの中に水だけを入れ、ゴムの板で水がもれないようにした。

とじこめた水をピストンで真上からおしたときの水の堆積について正しいものを、次のアからウまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。

ア 小さくなる。 イ 大きくなる。 ウ 変わらない。

【図1】



※東京都の正答率は68.7%、青梅市は58.0%であった。

4(1)は、閉じ込めた水は押し縮められないことを理解しているかみる問題である。

誤答の中で最も反応率が高いのは、「とじこめた水をおそうとしてもおせないこと」を理解していないため、閉じ込めた水を押し縮めると水の体積が小さくなるかと解答した例である。

この誤答の要因として、閉じ込めた水を押し縮めた様子が、閉じ込めた空気を押し縮めたときの様子と同じであると誤って理解していることによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 体験・体感を充実させた実験を行う。



閉じ込めた空気や水を押し縮めたときの体積の変化は、身近なものを使って、その現象を体感できます。

空気

飛ぶおもちゃ
づくり

空気と水

水

浮沈子

水ロケット

ペットボトルを利用した水ロケットや浮沈子、ストロー飛行機やブーメラン等、身近なものを利用した材料で製作することによって、空気や水の性質の理解や体験を深め、日常の経験や体感する機会を増やす。「空気が元の体積に戻ろうとする力」や「水の体積」等について十分な時間をかけて、現象を捉える活動を充実させる。

第2章

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」
(中学校)

I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の概要

1 調査実施の趣旨

東京都教育委員会では、平成15年度から、国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉の教科の目標や内容の実現状況を把握し、それを指導方法の充実・改善に結びつけることを目的に、教科別・観点別の学力定着状況調査を4年間実施した。平成18年度から平成20年度にかけては、「問題解決能力等の調査」を実施し、平成19年度から平成22年度にかけては、「基礎的・基本的な事項に関する調査」を実施した。

これまでの調査の結果から、東京都における生徒の学力の定着状況については、おおむね良好であるが、「長い文章を読んで内容を把握することや情報を整理して判断すること」について、課題があることが明らかになった。この課題を踏まえ、平成22年度には、「文章や図表、グラフなどから必要な情報を正確に読み取り、解釈しながら問題を解決する」過程において、生徒がどの段階でどのような学習のつまずきがあるのかを明らかにするために、「読み解く力に関する調査」を実施した。平成23年度からは、中学校学習指導要領が先行実施されたことを踏まえ、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況と「読み解く力」の定着状況を把握するために、国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉の各教科について調査を実施している。

2 調査問題作成の基本方針

- (1) 調査問題を、よりよい授業展開の在り方を提案する「授業提案型」および生徒の学習のつまずきが、どこでどのように見られたのか分析できる「課題分析型」の2種類とする。
- (2) 学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの評価の観点から調査する。
- (3) 「読み解く力」の定着状況を、「必要な情報を正確に取り出す力」、「比較・関連付けて読み取る力」、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の3つの観点から調査する。

3 調査項目

中学校第2学年 ※各教科とも小学校および中学校第1学年に学習した内容を含む。

教科	調査項目
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くこと（「聞くこと」については、音声を聞いて答える問題） ・漢字の読み（小学校「学年別漢字配当表」）・漢字の書き（小学校「学年別漢字配当表」） ・言葉に関する知識（文の成分の順序や照応） ・文学的な文章の読み・説明的な文章の読み・書くこと <p>【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力</p>
社会	<p>[地理的分野]・世界の地域構成・世界各地の人々の生活と環境・世界の諸地域 ・世界の様々な地域の調査・日本の地域構成</p> <p>[歴史的分野]・歴史のとらえ方・古代までの日本・中世の日本</p> <p>【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力</p>
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・正負の数・文字と式・一次方程式・比例と反比例・平面図形・空間図形 ・資料の活用・式の計算（第2学年） <p>【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力</p>
理科	<p>[第1分野]・光と音・力と圧力・物質のすがた・状態変化 ・電気の働き（小学校第4学年）・電気の利用（小学校第6学年）</p> <p>[第2分野]・生物の観察・植物の体のつくりと働き・植物の仲間 ・地層の重なりと過去の様子・火山と地震</p> <p>【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力</p>
外国語 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くこと（音声を聞いて答える問題） ・読むこと ・書くこと <p>【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力</p> <p>※時制は現在形、現在進行形、過去形のみ</p>

Ⅱ 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の結果について

1 調査結果の概要

教科	《教科の観点ごとの正答率》					《教科の読み解く力ごとの正答率》						
	内容	都全体	平均正答率グラフ(%)			差	評価の観点	都全体	平均正答率グラフ(%)			差
		青梅市	0	50	100			青梅市	0	50	100	
国語	国語への関心・意欲・態度	55.1				0.2	必要な情報を正確に取り出す力	39.4				-6.3
		55.3						33.1				
	話す・聞く能力	63.1				-1.5	比較・関連付けて読み取る力	58.6				-4.4
		61.6						54.2				
	書く能力	49.2				-2.5	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	59.9				-5.5
		46.7						54.4				
	言語についての知識・理解・技能	64.8				-4.6	B 読み解く力に関する内容					-5.6
		60.2						49.3				
	読む能力	67.2				-3.1						
		64.1										
A 教科の内容	61.6				-3.3	教科の合計(A+B)	59.8				-3.5	
	58.3						56.3					
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	83.7				2.4	必要な情報を正確に取り出す力	54.0				-3.5
		86.1						50.5				
	社会的な思考・判断・表現	48.7				-3.0	比較・関連付けて読み取る力	38.1				-2.2
		45.7						35.9				
	資料活用の技能	67.2				-2.7	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	43.7				-1.5
		64.5						42.2				
	社会的事象についての知識・理解	55.9				-1.8	B 読み解く力に関する内容	45.2				-2.3
		54.1						42.9				
	A 教科の内容	58.7				-2.1	教科の合計(A+B)	56.1				-2.1
		56.6						54.0				
数学	数学への関心・意欲・態度	81.1				-2.2	必要な情報を正確に取り出す力	73.4				-3.0
		78.9						70.4				
	数学的な見方や考え方	31.6				-8.1	比較・関連付けて読み取る力	38.1				-6.9
		23.5						31.2				
	数学的な技能	54.0				-6.4	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	12.0				-4.5
		47.6						7.5				
	数量や図形などについての知識・理解	66.4				-7.7	B 読み解く力に関する内容	41.2				-4.8
		58.7						36.4				
	A 教科の内容	56.3				-6.8	教科の合計(A+B)	53.1				-6.3
		49.5						46.8				
理科	自然事象への関心・意欲・態度	81.9				-2.3	必要な情報を正確に取り出す力	54.5				-5.5
		79.6						49.0				
	科学的な思考・表現	45.6				-3.8	比較・関連付けて読み取る力	37.5				-1.6
		41.8						35.9				
	観察・実験の技能	50.8				-4.9	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	37.3				-3.5
		45.9						33.8				
	自然事象についての知識・理解	52.4				-3.0	B 読み解く力に関する内容	43.1				-3.5
		49.4						39.6				
	A 教科の内容	52.9				-3.5	教科の合計(A+B)	50.8				-3.5
		49.4						47.3				
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	68.1				-3.8	必要な情報を正確に取り出す力	35.7				-7.1
		64.3						28.6				
	外国語表現の能力	41.0				-3.3	比較・関連付けて読み取る力	21.8				-4.5
		37.7						17.3				
	外国語理解の能力	56.5				-4.1	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	18.2				-3.1
		52.4						15.1				
	言語や文化についての知識・理解	67.5				-3.3	B 読み解く力に関する内容	25.2				-4.9
64.2					20.3							
A 教科の内容	60.9				-3.6	教科の合計(A+B)	53.6				-4.0	
		57.3						49.6				

2 各教科の問題ごとの正答率一覧

(1) 国語（中学校第2学年対象）

問題番号	通し番号	要領の 学習指導 内容	出題のねらい	評価の観点					正答率 (都全体 (青梅市)		正答率グラフ(%)	差	分類	
				①	②	③	④	⑤		%				
											0	50	100	
1(1)	1	1年 A話・聞 オ	話の内容を聞き取ることができる。		○				69.1	%		-1.1	●	
1(2)	2		話し合いの話題や方向を的確に捉えることができる。		○				68.0	%				
1(3)	3		話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができる。		○				92.5	%		-1.9		
1(4)	4	1年 A話・聞	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめようとしている。	○					27.6	%				
2(1)	5	1年 伝統(1) ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる。					○	54.3	%		-8.8	●	
2(2)	6							○	54.1	%				
2(3)	7							○	77.9	%		-6.2	●	
2(4)	8							○	69.1	%				
3(1)	9	1年 伝統(1) ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる。					○	54.3	%		-5.0	●	
3(2)	10							○	64.5	%				
3(3)	11							○	47.3	%		-9	●	
3(4)	12							○	42.8	%				
4(1)	13	1年 伝統(1) イ	主語（主部）と述語（述部）の働きについて理解し、文の中で正しく使うことができる。					○	38.0	%		-8.5	●	
4(2)	14							○	29.5	%				
5	15	1年 伝統(1) イ	指示語の働きについて理解し、文の中で正しく使うことができる。					○	42.4	%		-1.4	●	
6(1)	16	1年 C読 ウ	ある場面での登場人物の様子を読み取ることができる。					○	66.5	%				
6(2)	17			ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができる。					○	65.1	%		-3.2	
6(3)	18				情景を描写した表現から場面を読み取ることができる。					○	71.1			%
6(4)	19			ある場面での登場人物がある心情を読み取ることができる。						○	67.9	%		-2.0
7(1)	20	1年 C読 イ	文章の中心となる内容について理解するために必要な情報を正確に取り出すことができる。		取り出す力					55.6	%			
7(2)	21			取り出す力					51.7	%			-5.1	●
7(3)	22			読み取る力					72.2	%				
7(4)	23	1年 C読 オ	文章から読み取ったことを基に、理解・解釈・推論し、文章の中心となる内容について考えをまとめることができる。	解決する力					70.2	%			-5.5	
8(1)	24	1年 B書 イ	集めた材料を、目的や意図に応じて分類・整理し、段落の役割等を考えて文章を構成することができる。				○		40.0	%				
8(2)①	25	1年 B書 ウ	伝えたい事実や事柄について、目的や意図に応じて自分の考えや気持ちを工夫して書くことができる。				○		32.5	%			-3.3	
8(2)②	26	1年 B書 エ	表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめながら、書いた文章を推敲することができる。				○		38.8	%				
8(3)	27	1年 B書 オ	書いた文章を互いに読み合い、表現の工夫等について、意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすることができる。				○		33.7	%			-1.6	
8(4)	28	1年 B書	書くことについて学習したことを基に、意図や目的に応じて工夫して文章を書こうとしている。	○					58.6	%				
									54.2	%				
									59.9	%				
									54.4	%				
									50.4	%				
									48.7	%				
									68.1	%				
									64.8	%				
									28.2	%				
									24.7	%				
									50.3	%				
									48.7	%				
									55.8	%				
									56.5	%				

評価の観点 ①国語への関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤言語についての知識・理解・技能
(分類)●正答することが期待される問題(到達目標値)

(2) 社会 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	要領の 学習指導 内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)			差	分類
				①	②	③	④		0	50	100		
1(1)	1	小6 (2) アイ	日本国憲法に示された三大原則を理解している。				○	52.3 %		-3.3	●		
1(2)	2		国会、内閣、裁判所の仕組みについて資料を読み取ることができる。			○		49.0 %		-1.0	●		
1(3)	3		日本国憲法に示された国民の義務を理解している。				○	52.1 %					
2(1)①	4	地理 (2) ア	日本の都道府県の位置を理解している。				○	38.5 %		-5.4			
2(1)②	5						○	85.2 %		1.3	●※		
2(1)③	6						○	86.5 %					
2(2)	7			日本の都道府県の名称と位置、地域区分を理解している。				○	68.2 %		1.8	●※	
2(3)	8			日本の都道府県の名称と位置、県庁所在地名を理解している。				○	70.0 %				
3(1)	9			地理 (1)ア	主な国々の名称と位置を理解している。				○	53.0 %		0.7	●※
3(2)	10			地理 (1)イ	世界の人の生活の様子を資料から捉えることができる。				○	53.7 %			
3(3)	11						○	75.2 %		5.4	●		
3(4)	12	世界の人の生活の様子を資料と関連付けることができる。						○	80.6 %				
3(5)	13	世界の人の生活の様子を資料から捉え、説明することができる。					○		75.2 %		-4.2	●	
3(6)	14	世界各地の人の生活と環境の多様性を意欲的に追及し捉えようとしている。	○						71.0 %				
4(1)	15	地理 (1)ウエ	北アメリカ州の地域的特色を理解している。						○	71.3 %		-6.9	●
4(2)	16		北アメリカ州の地域的特色を、資料と関連付けて捉えることができる。				○	64.4 %					
4(3)	17		北アメリカ州の農業の特色をまとめることができる。			○		79.0 %		-2.9	●		
5(1)	18	歴史 (2)アイ	日本と東アジアとのかかわりについて、年表と資料とを結び付けることができる。				○	76.1 %		-1.8	●		
5(2)X	19	歴史 (2)イ	古代までの日本の政治の特色について、理解している。				○	83.8 %					
5(2)Y	20						○	82.0 %		-1.8	●		
5(3)	21			古代までの日本の特色について理解している。			○		89.7 %		0.1	●	
6(1)	22	歴史 (3)ア	中世の日本において、武力を背景にして、武士が次第にその支配を広げていったことを理解している。				○	89.8 %					
6(2)	23		中世の日本において、東国に武家政権が成立した理由を考察し、表現することができる。			○		35.4 %		1.4	●		
6(3)	24		中世における社会の変化について、複数の資料を読み取り、関連付けることができる。				○	36.8 %					
6(4)	25		中世における社会の変化をまとめることができる。			○		83.7 %		2.4	●		
7(1)	26	地理 (2)エ	1967年の地域の様子を正確に取り出すことができる。	取り出す力				86.1 %					
7(2)	27		1967年から1998年にかけての、地域の変化を比較、関連付けて読み取ることができる。	読み取る力					37.2 %		-2.1	●	
7(3)	28		1967年と1998年の人口、地目別面積割合をもとに、1967年の土地利用を推論することができる。	解決する力					35.1 %		-2.6	●	
8(1)	29	歴史 (4)	江戸時代の社会の特色を正確に取り出すことができる。	取り出す力				47.8 %		-6.3			
8(2)	30		江戸時代の町の変化をまとめることができる。	読み取る力					62.8 %				
8(3)	31		江戸時代の江戸の町の変化の理由を推論することができる。	解決する力					56.5 %		-6.3		

評価の観点 ①社会的事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・表現 ③資料活用の技能
④社会的事象についての知識・理解 (分類)●正答することが期待される問題(到達目標値)
※小4までの東京ベーシック・ドリルをクリアしていれば正答することができる問題

(3) 数学 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④				
				0		50					
1(1)	1	小3A(6)ア	分数の数直線上の位置を理解している。				○	56.5 % 44.2 %		-12.3	●※
1(2)	2	小5B(4)ア	問題文から比較量と割合を捉え、割合を求めることができる。				○	61.0 % 51.3 %		-9.7	●
1(3)	3	小6D(4)	百分率を用いた割合の計算をすることができる。				○	54.6 % 46.7 %		-7.9	●
2(1)	4	1年A(1)ウ	負の数を用いた四則計算ができる。				○	75.9 % 73.7 %		-2.2	●
2(2)	5	1年A(1)イ	指数の意味を理解している。				○	76.6 % 73.5 %		-3.1	●
2(3)	6	1年A(1)ア	負の数の四則計算の意味を理解している。				○	71.6 % 61.1 %		-10.5	●
2(4)	7	1年A(1)エ	具体的な場面で生の数と負の数を用いて表現する方法を理解している。				○	61.9 % 55.5 %		-6.4	●
3(1)	8	1年A(2)イ	文字式における乗法と除法の表し方を理解している。				○	71.3 % 63.0 %		-8.3	●
3(2)	9	1年A(2)ウ	文字式の計算ができる。				○	78.4 % 75.1 %		-3.3	●
3(3)	10	2年A(1)ウ	等式の変形ができる。				○	61.8 % 50.2 %		-11.6	●
3(4)	11	1年A(3)ウ	一次方程式を解くことができる。				○	82.9 % 81.6 %		-1.3	●
4(1)	12	1年A(2)エ	台形の面積の求め方を表す図や説明から、求め方を表す式を考えることができる。		○			50.5 % 40.6 %		-9.9	
4(2)	13		文字を使うことのよさを捉え、更に文字を使おうとしている。	○				84.0 % 81.9 %		-2.1	●
5(1)	14	1年A(3)ウ	夏美さんは春男くんの15分後に出発していることから、夏美さんの進んだ時間をx分としたとき、春男くんの進んだ時間をxを用いて表すことができる。				○	29.4 % 21.3 %		-8.1	●
5(2)	15		問題文にある数量関係を読み取り、一次方程式をつくることができる。				○	23.7 % 17.0 %		-6.7	●
5(3)	16		問題文から条件を読み取り、一次方程式の解の吟味の方法を考えることができる。		○			43.6 % 34.0 %		-9.6	
6(1)	17	1年C(1)ア	時間に伴って変化する数量を理解している。				○	69.9 % 63.6 %		-6.3	●
6(2)	18	1年C(1)エ	比例のグラフから比例定数を求めることができる。				○	25.7 % 18.3 %		-7.4	●
6(3)①	19	1年C(1)オ	問題文から2つの数量関係をグラフに表現する方法を考えることができる。		○			19.1 % 12.4 %		-6.7	
6(3)②	20		2つの比例のグラフから、yの値が定まったときのxの値の差を考えることができる。		○			13.4 % 7.1 %		-6.3	
7(1)	21	1年B(1)ア	半円の中心を求めるために、垂直二等分線を作図することができる。				○	46.8 % 41.1 %		-5.7	●
7(2)	22		平面図形の学習内容について、更にすすんで調べようとしている。	○				78.2 % 75.8 %		-2.4	●
7(3)	23	1年B(1)イ	図形の対称移動や回転移動の方法を理解している。				○	57.2 % 50.4 %		-6.8	●
8(1)	24	1年B(2)イ	大きい円錐から小さい円錐を取り除いた立体について、問題文から正しく取り出すことができる。					61.4 % 56.7 %		-4.7	●
8(2)	25	1年B(2)ウ	円錐台の展開図から、側面にある長さが短い方の弧の長さを読み取ることができる。					49.0 % 42.0 %		-7.0	
8(3)	26		円錐台の展開図から、円錐台の表面積を求めることができる。					10.1 % 8.1 %		-2.0	
9(1)	27	1年D(1)ア	度数分布表から度数の合計を正確に取り出すことができる。					85.4 % 84.1 %		-1.3	●※
9(2)	28		2つの度数分布表について、相対度数・平均値・最小値を比較することができる。					27.1 % 20.4 %		-6.7	●
9(3)	29	1年D(1)イ	2つの度数分布表から傾向を捉え、根拠をもって説明することができる。					13.9 % 6.9 %		-7.0	

評価の観点 ①数学への関心・意欲・態度 ②数学的な見方や考え方 ③数学的な技能

④数量・図形などについての知識・理解

●正答することが期待される問題(到達目標値)

※小4までの東京ベーシック・ドリルをクリアしていれば正答することができる問題

(4) 理科 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体 青梅市)	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④				
1(1)	1	3年B(1)イ	植物のからだの名称を理解している。				○	87.0 % 87.4 %		0.4	●※
1(2)	2	2分野 (1)ア(ア)	顕微鏡を正しく取り扱うことができる。				○	58.0 % 50.3 %		-7.7	●
1(3)	3	2分野 (1)イ(イ)	蒸散する水の量について適切に考えることができる。		○			51.8 % 45.6 %		-6.2	
2(1)	4	1分野 (2)ア(イ)	水素を発生させる物質の種類と方法を理解している。				○	17.2 % 14.9 %		-2.3	●
2(2)	5		酸素、アンモニアの気体の性質から、適切に気体を集めることができる。				○	39.6 % 38.3 %		-1.3	●
2(3)	6		4種類の気体の性質を理解し、それらの性質を見極める方法を適切に考えることができる。		○			34.1 % 30.8 %		-3.3	
3(1)	7	4年A(2) ア	水の温度による体積の変化を理解している。				○	37.8 % 32.2 %		-5.6	●※
3(2)	8	1分野 (2)ウ(ア)	ロウと水の状態変化における体積と質量の変化を実験結果から読み取ることができる。				○	59.1 % 54.0 %		-5.1	●
3(3)	9		ロウの状態変化を粒子モデルとして理解している。				○	65.1 % 58.1 %		-7	●
3(4)	10	1分野 ウ(ア)(イ)	状態変化における体積と質量の関係について関心をもち、科学的に調べようとしている。	○				78.5 % 75.2 %		-3.3	●
4(1)	11	2分野 (1)ア(ア)	ルーペを正しく取り扱うことができる。				○	46.3 % 40.9 %		-5.4	●
4(2)	12	2分野 (2)ア(ア)	火山灰の特徴と関連付けて、マグマの性質や火山の特徴について理解している。				○	38.2 % 34.8 %		-3.4	
4(3)	13		観察結果を総合的に判断し、岩石の種類を適切に考えることができる。		○			42.5 % 38.5 %		-4.0	
5(1)	14	2分野 (2)イ(ア)	地層ができるときの堆積物の沈み方を理解している。				○	67.8 % 66.8 %		-1.0	●
5(2)	15		河口付近に粒子が堆積するときの様子を、粒子の大きさから適切に考えることができる。		○			58.9 % 58.9 %		0.0	●
5(3)	16		地層の観察や地層に関する実験結果から、地層のでき方を考えることができる。		○			28.1 % 25.5 %		-2.6	
6(1)	17	4年A(3) ア	乾電池の並列つなぎ、直列つなぎと電気の大きさについて理解している。				○	53.7 % 50.1 %		-3.6	●
6(2)	18	6年A(4) ウ	実験結果から、電熱線の太さ、電池の数によって電気の働きの変化がわかることを理解している。				○	62.0 % 57.3 %		-4.7	●
6(3)	19		実験結果から、太い電熱線を乾電池2個につなげたときの電気の働きの変化を適切に考えることができる。		○			58.4 % 51.1 %		-7.3	●
7(1)	20	1分野 (1)ア(ア)	入射角と屈折角の大きさの関係を理解している。				○	65.6 % 62.9 %		-2.7	●
7(2)	21		「光の屈折」について理解している。				○	29.4 % 29.1 %		-0.3	●
7(3)	22		目で見えるものの形と光の進み方について関心をもち、科学的に調べようとしている。	○				85.2 % 83.9 %		-1.3	●
8(1)	23	1分野 (1)イ(ア)	表1と表2のばねののびの数値の差を正確に取り出すことができる。	取り出す力				55.0 % 47.4 %		-7.6	●
8(2)	24	1分野 (1)ア(イ)	表1と表2を比較しながら、ばねののびとおもりの体積を関連付けて考えることができる。	読み取る力				31.4 % 28.8 %		-2.6	
8(3)	25		体積の大きさが大きいほど、空気中と水中のばねののびの差が大きくなることを読み解くことができる。	解決する力				39.2 % 38.6 %		-0.6	
10(1)	26	2分野 (1)ウ(ア)	「花がある植物」に共通する情報を正確に取り出すことができる。	取り出す力				54.0 % 50.7 %		-3.3	●
10(2)	27	2分野(1) ウ(ア)・(イ)	体のつくりの特徴を比較・関連付けることができる。	読み取る力				43.6 % 43.0 %		-0.6	●
10(3)	28		植物について、体の特徴のつくりの特徴からどの植物の仲間になるかを正しく推論することができる。	解決する力				35.5 % 29.1 %		-6.4	

評価の観点 ①自然現象への関心・意欲・態度 ②科学的な思考・表現 ③観察・実験の技能
④自然現象についての知識・理解

●正答することが期待される問題(到達目標) ※小4までの東京ベーシック・ドリルをクリアしていれば正答することができる問題

(5) 英語 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)			差	分類	
				①	②	③	④		0	50	100			
1(1)	1	聞くことウ	相手の発言に適切な応答ができる。			○		61.6 %				-8.6	●	
1(2)	2					○		53.0 %				-3.1	●	
1(3)	3			相手からの質問(疑問詞のある疑問文)に対して適切な応答ができる。			○		38.4 %				-2.8	●
2(1)	4	聞くことオ	話を聞いて内容と合う写真を選ぶことができる。			○		56.9 %				-2.8	●	
2(2)	5			会話を聞いて祖父のメガネがどこにあるかを判断できる。			○		54.1 %				-5.7	●
2(3)	6	聞くことイ	話を聞いて乗るバスの時間が判断できる。			○		41.1 %				-5.7	●	
2(4)	7			会話を聞いてトムが見た動物の種類が何種類かを判断できる。			○		35.4 %				-1.0	●
3	8	読むこと	理解できないところがあっても最後まで読み続けようとしている。	○				90.8 %				-1.0	●	
4(1)	9	読むこと	場所を表す前置詞を正しく理解している。			○		89.8 %				-0.9	●	
4(2)	10					○			15.5 %				-0.9	●
4(3)	11					○			14.6 %				-0.9	●
5ア	12	読むこと	時制に合う動詞を適切に使うことができる。			○		63.0 %				-4.0	●	
5イ	13					○			59.0 %				-0.9	●
6(1)	14	書くことオ	正しい文法を使って書くことができる。		○			72.3 %				-4.9	●	
6(2)	15					○			51.2 %				-4.9	●
7(1)	16	読むことウ	代名詞(We)が表しているものを理解している。			○		46.3 %				-1.6	●	
7(2)	17			まとまりのある英文を読んで、中心となる話題を捉えることができる。			○		30.7 %				-1.6	●
8(1)	18	書くことイ	平叙文の語順を理解している。			○		29.1 %				-5.7	●	
8(2)	19			whoで始まる疑問文の語順を理解している。			○		70.5 %				-5.7	●
8(3)	20			副詞の入る位置を理解している。			○		64.8 %				-4.4	●
8(4)	21			How many + 名詞で始まる疑問文の語順を理解している。			○		70.4 %				-4.4	●
8(5)	22			what + 名詞で始まる疑問文の語順を理解している。			○		66.0 %				-4.4	●
9	23	書くこと	自分の知っている単語や文法を使って、一定条件に従い、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	○				55.6 %				-9.9	●	
10(1)	24	読むこと	会話から「ヒロミが駅員に時刻をたずねたときの時間」の情報を正確に取り出すことができる。	取り出す力				45.7 %				-1.3	●	
10(2)	25			会話から「Aに入る値段」の情報を関連付けて読み取ることができる。	読み取る力				86.9 %				-1.3	●
10(3)	26			新しい条件を背景として理解し、解決できる。	解決する力				85.6 %				-3.9	●
11(1)	27	読むこと	「参加費以外に必要な持ち物がある特別なプログラム」の情報を正確に取り出すことができる。	取り出す力				67.5 %				-3.9	●	
11(2)	28			「マリが帰国する前に参加できるプログラム」と「参加費が最も高いプログラム」の情報を関連付けて読み取ることができる。	読み取る力				63.6 %				-3.9	●
11(3)	29			マリとトムの会話から参加するプログラムを推論することができる。	解決する力				76.9 %				-1.3	●
								59.2 %				-1.8	●	
								57.4 %				-1.8	●	
								75.3 %				-0.8	●	
								74.5 %				-0.8	●	
								28.3 %				-5.0	●	
								23.3 %				-5.0	●	
								15.6 %				-4.5		
								11.1 %				-4.5		
								12.2 %				-4.0		
								8.2 %				-4.0		
								43.0 %				-9.2	●	
								33.8 %				-9.2	●	
								28.0 %				-4.5		
								23.5 %				-4.5		
								24.2 %				-2.1		
								22.1 %				-2.1		

評価の観点 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語表現の能力 ③外国語理解の能力

④言語や文化についての知識・理解

(分類) ●正答することが期待される問題(到達目標値)

青梅市の合計正答数の人数分布 (中学校 第2学年)

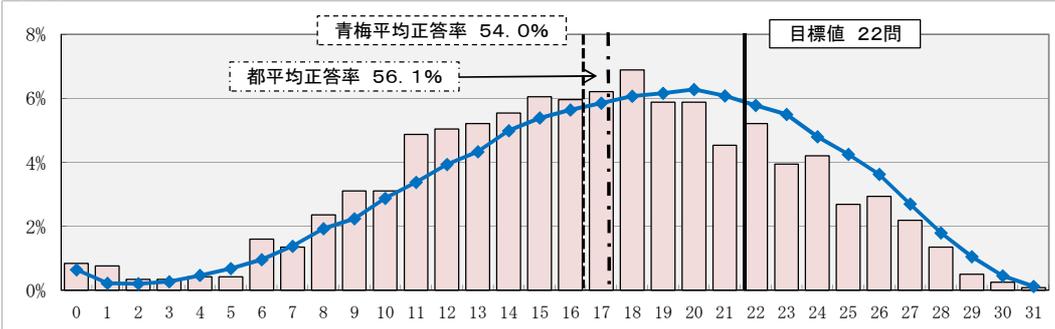
平成27年1月
青梅市教育委員会

*棒グラフが青梅市、折れ線グラフが東京都を示す。(縦軸：生徒の割合(%)、横軸：正答数(問))
※目標値とは、学習指導要領の内容について標準的に学習活動が行われたと想定した場合の、正答問数である。

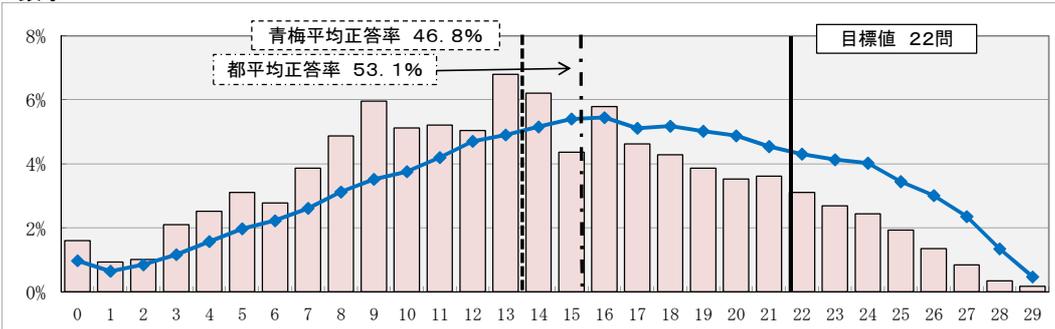
国語



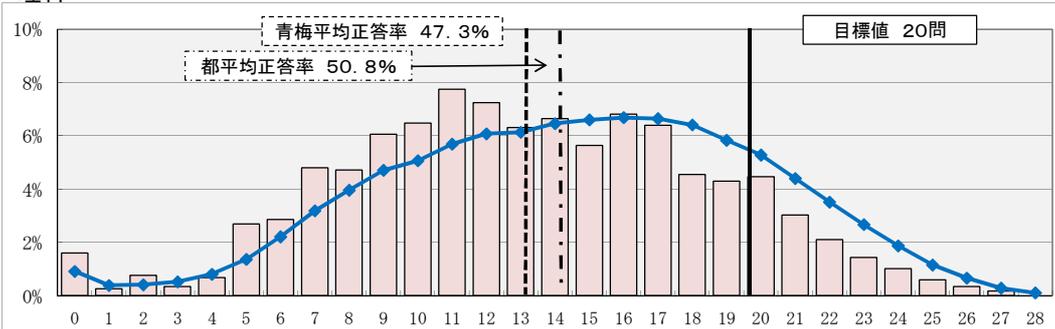
社会



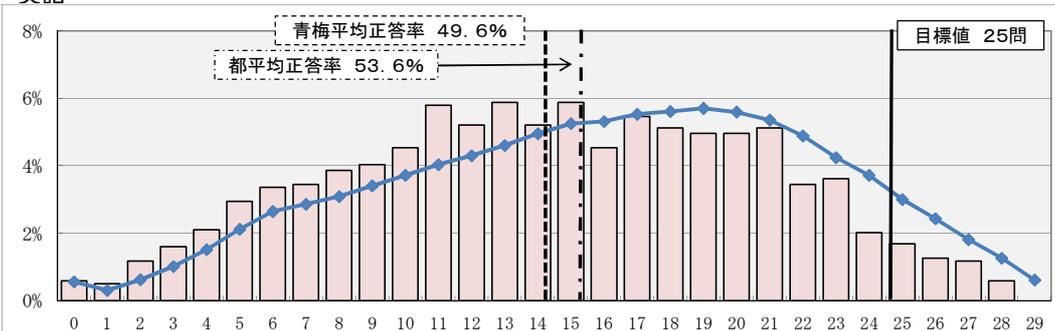
数学



理科



英語



3 各教科の問題ごとの結果分析と授業改善のポイント

(1) 国語（中学校）

- ③ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)から(4)までの___を付けたカタカナの部分に当たる漢字を楷書で書きなさい。

- (1) ぼくは、幼いころからスポーツがトクイだ。
 (2) 相手チームが先に点を取り、試合をユウリにすすめている。
 (3) 強く弓を引きしぼり、的を目がけて矢をハナった。
 (4) 森をぬけると、広大な平原が目の前にアラワれた。

	東京都の正答率	青梅市の正答率	結果分析	
(1)	69.5%	64.5%	「意」「有」「放つ」	小学校第3学年で学習する。 ※「利」は正しく書けているが、「有」を「優」「勇」とする誤答が多かった。 ※「放つ」にかんしては、無回答率が37.1%と最も高かった。
(2)	52.9%	47.3%	「得」「利」	小学校第4学年で学習する。 ※「得」を「特」とする誤答が多かった。
(3)	42.8%	33.8%	「現れる」	小学校第5学年で学習する。 ※誤答で最も多かったのは、「表れた」で4.9%である。
(4)	78.3%	75.1%		

【授業改善のポイント】 漢字の指導については、語彙指導と関連付けて行っていく。

- ③は、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができるかをみる問題である。漢字が語彙として定着しているかをみるために、同音（同訓）異義の漢字との使い分けができるかを問う出題である。日常の場面において使用頻度の高い熟語であっても、熟語の成り立ちや意味を理解させる指導が必要である。

- ④ 主語（主部）と述語（述部）の働きについて理解し、文の中で正しく使うことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)と(2)について、主語（主部）と述語（述部）が適切に対応するように、（ ）の部分を書きかえなさい。

- (1) 私の夢は、いつか大人になったら、世界一周の旅に（ 出る ）。
 (2) わたしたちが合唱コンクールで優勝できたのは、みんなの心が一つに（ なる ）。
 ※(1)について東京都の正答率は38.0%、青梅市は29.5%であった。(2)については、東京都の正答率は42.4%、青梅市は38.0%であった。

④は、主語（主部）と述語（述部）の働きについて理解し、文の中で正しく使うことができるかをみる問題である。これまでの調査から、文の主語や述語を捉えることについては、概ね満足できる状態にある。しかし、実際に文章を書く場面になると、主語と述語が正対していない、主述のねじれた文を書く生徒が少なくない。

【授業改善のポイント】 話し言葉と書き言葉の違いを意識させる。

- (1)、(2)ともに、「だ」「です」などで文を終わらせていない誤答の反応率が高かった。自分の書いた文章について推敲したり見直したりする場面において、主述が整合しているか確認させるとともに、話し言葉と書き言葉の違いを意識させ、使い分けを明確にさせる指導を継続して行っていく必要がある。

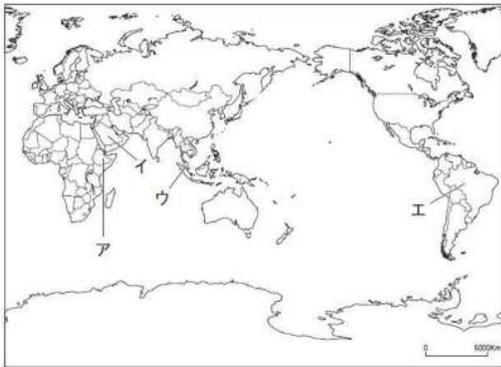
(2) 社会 (中学校)

③(1) 主な国々の名称と位置を理解している。

【社会的事象についての知識・理解】

【問題の概要】

もとやくんの班が発表で取り上げるマレーシアの位置として適切なものを、次の地図中のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。



【結果分析】

正答は「ウ」で東京都の正答率 71.3%に対して、青梅市の正答率は 64.4%であった。誤答の中で最も反応率が高いのは「ア」で 11.2%であった。

【授業改善のポイント】 主な国々の名称と位置を取り上げ、世界の地域構成を大観させる指導の充実を図る。

指導に当たっては、生徒一人一人の特性等に十分配慮して授業が展開されることが必要である。

- ・面積の広い国、人口の多い国、日本とかかわりの深い国、ニュースで頻繁に取り上げられる国などの国の位置を探するなど地図帳を活用する。
- ・生徒が小学校社会科の学習や日常生活の中で習得した世界の国々に関する知識を活用する。

⑤(2) 古代までの日本の政治の特色について理解している。

【社会的事象についての知識・理解】

【問題の概要】

(2) ゆきさんが集めたXとYの資料と関係のある人物を年表中のa～dの中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。また、その人物とかかわりのある時代の政治を下の1～4の中から1つ選び、番号で答えなさい。

X
この世をば
わが世とぞ思ふ
望月のかけたことも
無しと思えば
(自分の娘を天皇の后に立てた時に
よんだ歌)

Y
一に曰く、和をもって貴しとなし、
さからうことなきを宗とせよ。
二に曰く、あつく三宝を敬え。三宝
とは仏・法・僧なり。

- 1 大和を中心とする近畿の豪族たちは、大王を中心に連合して大和政権をつくった。地方の豪族は、地方の支配を任せられるかわりに中央の大和政権に貢物を納めたり役人として仕えたりした。
- 2 中国や朝鮮の進んだ制度や文化を取り入れ、天皇中心の政治を行うことを目指して、政治制度を整えた。家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に取り立てたり役人の心構えを示す憲法をつくったりした。
- 3 伝染病やききんなどの社会不安が広まったため、仏教の力で国家を守ることを考え、国分寺・国分尼寺の建立を命じたり東大寺に大仏を作らせたりした。東大寺には西アジアやインドから中国をへて日本にもたらされた宝物があった。
- 4 この時代には、貴族が力をのぼし、天皇が幼い時には摂政、成人すると関白となって天皇を補佐する職について、摂関政治を行った。11世紀には、浄土信仰の広まりにより阿彌陀堂がさかんにつくられるようになった。

※(1)東京都の正答率は 55.0%、青梅市は 45.7%であった。

【授業改善のポイント】 学習内容の確かな理解と定着を図る指導を行う。

歴史的事象の意味・意義・特色、事象間の関連を説明する学習活動を行うことで、学習内容のより確かな理解と定着を図ることができる。

(3) 数学 (中学校)

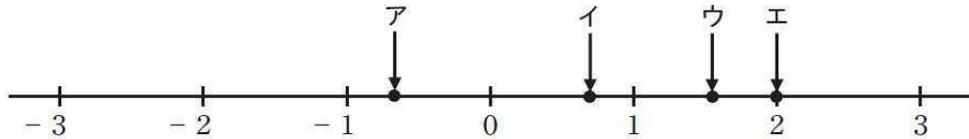
1(1) 分数の数直線上の位置を理解している。

【数量や図形などについての知識・理解】

【問題の概要】

1 次の(1)～(3)の各問題に答えなさい。

(1) $\frac{2}{3}$ に対応する点はどれですか。次の数直線上のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。ただし、 $\frac{2}{3}$ に対応する点は必ずア～エの中にあるものとします。



※東京都の正答率は 56.5%、青梅市は 44.2%であった。

※正答は「イ」で、44.2%の正答率である。誤答の中で反応率が高いものは、「エ」である。

2(3) 負の四則演算の意味を理解している。【数量や図形についての知識・理解】

【問題の概要】

(3) n が負の数のとき、計算の結果がいつでも正の数になるものはどれですか。次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア $3 + n$

イ $3 - n$

ウ $3 \times n$

エ $3 \div n$

※東京都の正答率は 71.6%、青梅市は 61.1%であった。

※正答は「イ」で、61.1%の正答率である。誤答の中で反応率が高いものは、「ア」である。

【授業改善のポイント】 n が負の数のとき、それぞれの文字式が正の数になるかどうかを演繹的に説明できるようにする。

- 文字式に符号が付いているため、理解が難しい。 $-n$ を「 $(-1) \times n$ 」と変形して考えさせる。
- 文字式を用いた式の理解が十分でない生徒に対しては、 n に当てはめることのできる数にはどのようなものがあるかを考えさせようとして、実際にそれぞれの文字式に数を代入させることが考えられる。

3(3) 等式の変形ができる。

【数学的な技能】

【問題の概要】

次の式を、 y について解きなさい。

$$3x + y = 8$$

※東京都の正答率は 61.8%、青梅市は 50.2%であった。

※正答は「 $y = -3x + 8$ 」で、50.2%の正答率である。誤答の中で反応率が高いものは、「 $y = -5x$ 」である。

(4) 理科 (中学校)

1(2) 顕微鏡を正しく取り扱うことができる。

【観察・実験の技能】

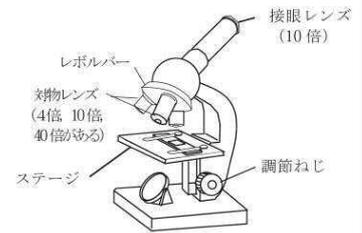
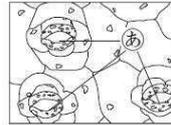
【問題の概要】

顕微鏡の倍率を 100 倍にして「すきま」の観察をするとき、顕微鏡の使い方として最も適切なものを、次のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

- ア 10 倍の対物レンズを使ってピントを合わせ、「すきま」を視野の中央に移動させて観察する。
- イ はじめに 4 倍の対物レンズを使ってピントを合わせ、「すきま」を視野の中央に移動させる。次に対物レンズにかえて観察する。
- ウ はじめに 40 倍の対物レンズを使ってピントを合わせ、「すきま」を視野の中央に移動させる。次に 4 倍の対物レンズにかえて観察する。
- エ はじめに 40 倍の対物レンズを使ってピントを合わせ、「すきま」を視野の中央に移動させる。次に 10 倍の対物レンズにかえて観察する。

※東京都の正答率は 58.0%、青梅市は 50.3%であった。

ツユクサの①の表皮を薄くはがし、右のような顕微鏡を使って、観察をしました。図 2 は、そのスケッチであり、②のような「すきま」が見られました。また、「すきま」は①の裏側に多くあることが確かめられました。



【授業改善のポイント】 操作技能の指導の充実を図る。

操作技能の習得については、「なぜこのような操作を行う必要があるのか」という実感を伴って理解させる指導の工夫が必要である。

例)・ICT 機器を活用して、実際の顕微鏡の視野をスクリーンなどに投影し、高倍率で観察対象を探した場合と、低倍率で観察対象を探した場合とを比較した映像を見せながら指導する。

- ・基本操作の機会を増やす。実験操作を行う生徒を固定化しないように、操作の分担を決めるとともに、観察・実験の個別化や少人数化を進めるなどの工夫を行う。

6(3) 実験結果から、太い電熱線をかん電池 2 個につなげたときの電気の働きの大きさを適切に考えることができる。

【科学的な思考・表現】

【問題の概要】

<実験>の〔操作 2〕を太い電熱線で行ったとき、発砲スチロールがとけて落ちるまでの時間はどのようになると考えられますか。最も適切なものを、次のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

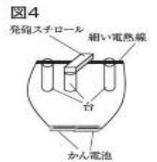
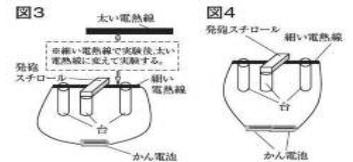
- ア 6.0 秒未満になる。
 - イ 6.0 秒以上で、6.3 秒未満となる。
 - ウ 6.3 秒以上で、12.6 秒未満になる。
 - エ 12.6 秒以上になる。
- ※東京都の正答率は 58.4%、青梅市は 51.1%であった。

(2) 電熱線に電流を流したときの発熱の様子を調べるため、次の<実験>を行いました。

<実験>

〔操作 1〕 図 3 のような実験装置を組み立てて、同じ材質で同じ長さの細い電熱線と太い電熱線に電流を流し、同じ大きさの発砲スチロールがとけて落ちるまでの時間を測定しました。

〔操作 2〕 図 4 のように〔操作 1〕の実験装置のかん電池の数を 2 個にして、細い電熱線に電流を流し、〔操作 1〕で使った同じ大きさの発砲スチロールがとけて落ちるまでの時間を測定しました。



<結果>

かん電池の数	電熱線の太さ	発砲スチロールがとけて落ちるまでの時間
1 個	細い	12.6 秒
	太い	6.0 秒
2 個	細い	6.3 秒

※6(3)の正答は「ア」で、誤答の中で最も反応率が高いのは「イ」であった。

【授業改善のポイント】 実験結果を予想させてから実験を実施する。

・具体的に何秒になるかについて、その理由をあわせて考えさせ、ワークシートに記入させる。その後、小グループでの話し合い活動により、自分の考えを深めさせてから実験を行うなどの指導の工夫が考えられる。

(5) 外国語<英語> (中学校)

1(1) 相手の発言に適切な応答ができる。

【外国語理解の能力】

【問題の概要】

<放送文>

A : How is this cake?

B : Mom, your cake is great

A : Thanks. Do you want some more?

ア I like cake イ Yes, please ウ You're welcome エ That's right

※東京都の正答率は 61.6%、青梅市は 53.0%であった。

【授業改善のポイント】 既習事項を繰り返し使う指導の充実を図る

質問に答えたり、相手の発言に適切に応じたりするためには、様々な種類の疑問文、慣用表現になれる必要がある。そのためには、表現を実際に使う活動を通して、繰り返し触れる必要がある。

- 授業開始のウォームアップの段階で、教師と生徒、生徒と生徒で既習事項を使ったやり取りを行うこと、教科書で会話文が出たときに、教師と生徒、生徒と生徒のロールプレイングをする機会をつくることなど、日常的に既習事項を繰り返し使う活動を入れるようにする。
- 教師と生徒によるやり取りの際には、教師が生徒の既習内容に応じて言葉や表現を意図的に選んだり、写真やピクチャーカード等を活用したりして、生徒の興味・関心を引き出しながら行うことが大切である。

8(1) 平叙文の語順を理解している。

【言語や文化についての知識・理解】

【問題の概要】

8 次の(1)～(5)の各問題の< >内に示されている語は、下の文のどこに入るのが適切ですか。最も適切な位置をア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

(1) Andy: Wow! That's a nice car.

Tony: My father bought last month. < it >

ア イ ウ エ

※東京都の正答率は 55.6%、青梅市は 45.7%であった。

【授業改善のポイント】 日本語と異なる英語の語順は繰り返し音読させる。

音読させる際には、意味のまとまりを意識して読ませ、印象的に覚えられるようにしていく。

また、全文を一回ずつ音読させるのではなく、軽重をつけ、何度も繰り返させることによって生徒の意識を高める。さらに、それらを用いて話してみるなど、実際に使ってみることを繰り返し、定着を図る。